



鋼橋技術研究会

技術情報部会

報告書

まえがき

技術情報部会は平成 11 年度に委員を改めて公募し、第二期目の活動を開始した。そのとき、本部会の役割は 2 つあると考えた。

一つは、最新の「技術情報」をできるだけ多くの鋼橋技術研究会の構成会員に伝えることである。講演や連続講義、およびホームページを用いた情報公開を主とした活動である。具体的には、コンクリート工学に関する連続講義や耐震設計法、海外の専門家による講演などを企画し、実施した。橋梁情報ホームページも開設することができた。幹事のかたの尽力もあって、鋼橋技術研究会会員向けの新しい活動ができたと思っている。

もうひとつの役割は、今後の鋼橋の展開において重要と思われる技術的課題に取り組み、その調査研究成果を発表し、会員に供することである。以下の 4 つのテーマについて WG を結成し、調査検討をおこなった。

WG1 連続合成桁床版耐久性の向上 WG（主査：野上邦栄，長井正嗣）

WG2 少数主桁橋の安全率低減の可能性に関する検討 WG（主査：杉山俊幸，長井正嗣）

WG3 橋梁情報ホームページ作成 WG（主査：中沢正利）

WG4 新素材ケーブルを用いた吊形式橋梁の開発 WG（主査：前田研一）

平成 11 年度から平成 13 年度の 3 年間にわたり、上記のテーマに関する WG 活動を精力的に行った。本報告書はそこでの成果を主として記するものである。いずれも実務的な立場を念頭に実施したものであり、調査報告として、設計資料として有用であることを期待している。

なお、部会が企画した講義、講演会などの開催には部会員、特に佐野幹事には大変お世話になった。また各WGの活動に積極的に参加された部会員の貢献も大きい。深く感謝しており、この場を借りてお礼を申し上げたい。

部会長 藤野 陽三